



退出を申出した路線の現況について

1. 2020年度当社営業状況（共通事項）

新型コロナウイルス感染症は、未だ猛威を振るい感染拡大が続く一方、政府の勧める新しい生活様式により、バス事業の本格再開が見通せない状況にあります。そのような状況下、当社事業のうち、高速バスは他県との移動自粛の要請による移動需要の減少により、大幅な運休を余儀なくされ、ほぼ運行していない状況が継続しています。また、貸切バスはキャンセルが相次ぎ、業界団体等と協力して安全性の広報を行いました。前年度比2割を切る状況に至りました。その結果、2020年度の売上は、前年度比で55%を切り、損益については2億円を超える大幅な赤字を計上するなど、過去に例のない企業存続の危機的な状況にあります。

当社はこれまで国、静岡県、沿線市町からの補助を受け、また高速バスや貸切バスの利益の内部補填により、生活路線である路線バスの維持に努めて参りました。各種給付金や補助金のご支援をいただいておりますが、利用者の減少が止まらず、多額の赤字を日々計上している状況では、抜本的な事業の見直しは避けては通ることができません。利用の少ない路線（影響の少ない路線）の減便等採算性の向上に向け検討を進めております。

2. 路線の現況について

(1) 須山線

◆この路線の概況

三島市から裾野市を縦断する幹線系統

沿線から裾野駅・三島駅や他の公共交通機関に接続する、通勤・通学を中心とした公共交通ネットワークを構成。

高齢者層を中心とした、病院・整形外科への通院手段

裾野市内では、須山地区からの通学需要や、鉄道・バス等の他公共交通機関への接続によるネットワークを構成する要素となっている。

※運行区間は路線図のとおり

◆利用状況・収支状況

須山線（須山発着）

年度	利用者数	運行経費 (A)	運賃収入 (B)	欠損額 (B-A)	補助額		バス事業者 負担額
					国庫補助	県補助	
2018年度	76,927人	37,395千円	16,202千円	▲21,193千円	4,633千円	4,633千円	▲11,927千円
2019年度	75,185人	37,449千円	15,129千円	▲22,320千円	3,529千円	3,529千円	▲15,262千円
2020年度	57,106人	36,848千円	13,915千円	▲22,933千円	7,505千円	3,631千円	▲11,797千円

須山線（下和田・帝人アカデミー富士発着）

年度	利用者数	運行経費 (A)	運賃収入 (B)	欠損額 (B-A)	補助額		バス事業者 負担額
					国庫補助	県補助	
2018年度	54,814人	17,549千円	10,373千円	▲7,176千円	1,844千円	1,844千円	▲3,488千円
2019年度	52,974人	18,457千円	10,562千円	▲7,895千円	1,972千円	1,972千円	▲3,951千円
2020年度	44,432人	18,021千円	9,155千円	▲8,866千円	2,798千円	2,332千円	▲3,736千円

◆2020年度の運行状況と今後の運行について

今回、退出を申出し、再編を検討しております須山線は、須山発着2系統、下和田・帝人アカデミー富士発着2系統の合計4系統から構成される路線です。

2020年度は国および静岡県から要件緩和分もふくめて約16,200千円の補助をいただいております（赤字額の約55%）。しかし、最終的には須山線の4系統で15,500千円の赤字となっております。

また、コロナ禍において下和田・帝人アカデミー発着系統は、輸送量が12.2に減少し、国庫補助対象の基準である15.0人を下回る実績となり、国庫補助の補助要件を満たさない状況となっております。2021年度～2022年度については、コロナ禍における救済処置として、国庫補助対象となりますが、緩和処置終了後に需要が回復し、要件を満たせるかは難しいと考えております。

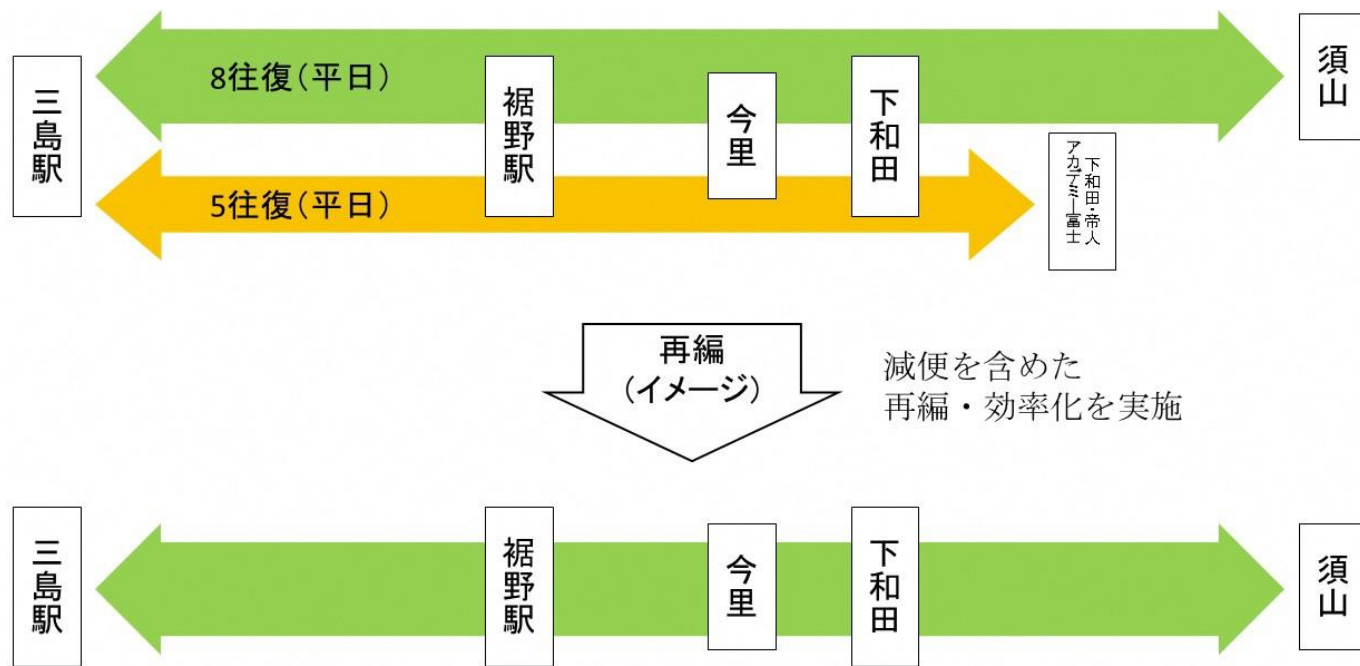
そのため、今後の運行を継続するには、引き続き国庫補助を受けるため、系統を集約することで補助要件を満たすとともに、皆様の協力を得て新たな需要地を経由するなどの再編を行いたいと考えております。

当社としても、須山線の運行を継続したいと考えておりますので、何とぞ今後の運行継続について、ご支援を頂きたいようお願い申し上げます。

◆須山線の再編について(案)

I：須山線の2系統の統合について

須山線の下和田・帝人アカデミー富士発着系統が国庫補助の補助要件を満たさないことから、須山発着に統一することで補助要件を満たしつつ、全体として減便を行いながら、支援を受けた運行を引き筒期行う事で、今後の路線維持を図っていくことを考えております。



II：今里集会所経由の見直し

須山線は、一部の便が今里集会所を経由しております。

この経路を開始した1996年(平成8年)から、20年以上が経過し、車両の交通量も増えております。そして、この経路は須山方面の県道24号線に出る交差点が、急坂上に位置し、また見通しが良くない等、安全上の課題となっております。

そのため、運行経路を県道24号線経由に統一することで、運行の安全性を向上いたしたいと考えております。





Ⅲ：新規宅地開発による経路変更について

裾野市今里に2019年から63区画の分譲地が造成されております。

通学利用の要望等がある事や、既存のバス利用者は減少しているため、新しい需要を取り入れることで、利用拡大・バス路線の維持を図っていきたくて考えております。

今後、変更についてご協議いただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。



(2) トヨタ自動車東日本線

◆路線の概要

本路線は、トヨタ自動車東日本線は平成18年8月の関東自動車工業の裾野市への本社移転を機に運行を開始した路線です。

下記の3系統から構成されます。

⑤三島駅北口～裾野駅入口～トヨタ東富士研究所前

三島駅北口発トヨタ東富士研究所前行 1便

トヨタ東富士研究所前発三島駅北口行 2便

トヨタ自動車東日本、トヨタ東富士研究所の関係者の利用

⑥三島駅北口→裾野駅→トヨタ東富士研究所前→御殿場特別支援学校

三島駅北口発御殿場特別支援学校行 1便

トヨタ関係2事業所の利用、および御殿場特別支援学校への通学利用

⑦裾野駅←御殿場特別支援学校

御殿場特別支援学校発裾野駅行 1便

主に通学利用

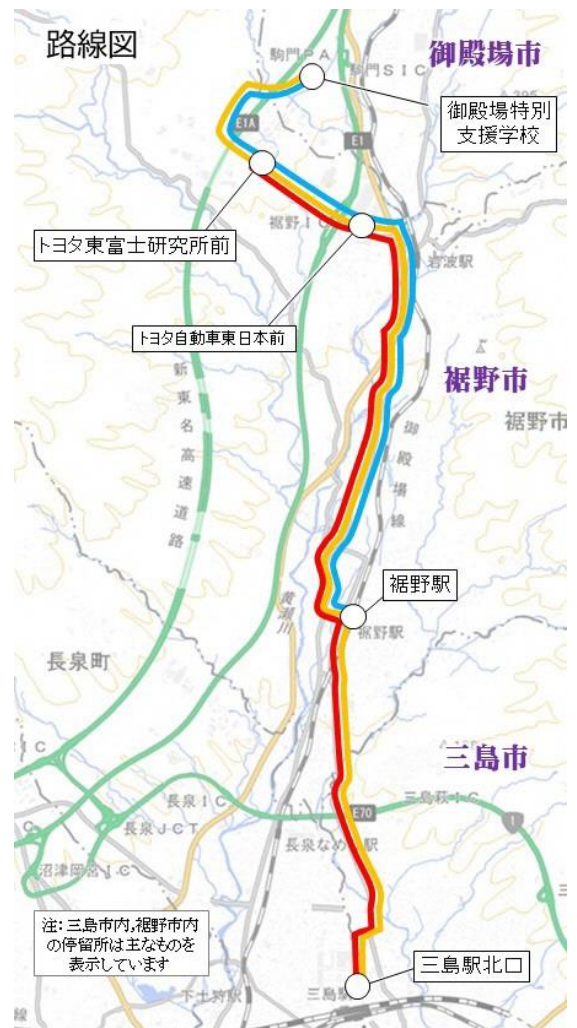
◆路線の運行経緯

本路線は、トヨタ自動車東日本線は平成18年8月の関東自動車工業の裾野市への本社移転を機に運行を開始した路線です。

現在は三島駅北口から2往復/日、裾野駅から0.5往復/日を運行しております。なお、平成23年からは、少しでも収支を良くするべく、御殿場特別支援学校へ延伸し混乗輸送を開始しております。

平成24年にはトヨタグループ内の再編が実施され、関東自動車工業はトヨタ自動車東日本となり、本社機能は徐々に宮城県に集約され、バス利用は年々減少しており、昨年(2020年)12月の東富士工場閉鎖に伴い、路線バス利用者数が大幅に減少したことから、今回の申し出に至りました。

なお、特別支援学校の高等部生徒の利用状況については、2019年度以前は10～15人程度、2020年度は5～6人程度の利用がみられます。



◆今後の方向性

今般の再編策として、コロナ禍やトヨタ自動車東日本東富士工場の閉鎖に伴い利用が減少していることから、御殿場特別支援学校の利用に特化して、三島駅～御殿場特別支援学校間の運行に短縮することで、赤字を削減することにより、運行継続を検討しております。

- ・トヨタ自動車東日本線については、御殿場特別支援学校の利便を確保して運行を継続。
- ・三島駅北口～裾野駅間は、他の系統で利便を確保します。
退出区間（路線のなくなる区間）は発生しない。
裾野市内では系統廃止により1/3以上の減便になる区間が発生。

